

課コード	00110	作成日	平成20年3月31日
所属名	児童相談所	作成者	篠ヶ瀬 秀哉

政策名(上位目的)
子どもとその家庭に対する相談援助活動の推進
目の名称
児童相談所費

	分野	部	課	施策・事務事業
計画コード				
	款	項	目	事項
科目コード	11	06	12	12
(旧科目コード)				

事業名		戦略性
里親支援事業(事業仕分け対象)		
事業概要		
目的	(対象、意図、求められる結果)	開始年度 終了予定年度
家庭での養育に欠ける子どもを家庭的環境の下で養育する里親委託を促進することを目的とする。		平成 19 年 年
活動内容		
<p>1 市民に対する里親制度の啓発活動 広報「はままつ」への一日里親の開催案内、民生委員・主任児童委員等を対象とした研修会での里親制度説明及び里親による体験発表、20年度は浜松市にて全国里親大会開催</p> <p>2 里親研修事業 (1) 基礎研修 里親になることを希望する者及び里親登録者に対し里親制度の理解促進と養育技術の向上などを目的とする。 施設訪問研修、養育に関する研修会、里親施設実習(養護施設で子どもとの交流体験及び養育実習)</p> <p>(2) 専門里親研修 養育里親として3年以上の養育経験のある者などに対し、虐待を受けた子どもを養育する里親として認定するための専門研修 社会福祉法人 恩賜財団母子愛育会へ委託実施</p> <p>3 里親養育相互援助事業 里親相互の交流により養育技術の向上と里親の精神的負担の軽減を図る。</p> <p>4 ショートルプラン(週末里親)事業 施設入所児童を里親登録者が週末などに受け入れ、子どもに家庭的生活を体験させるとともに里親と施設入所している子どもとの交流を図る。</p> <p>5 里親会事業への助成 里親同志の情報交換、交流、養育技術向上のための自主研修などを実施している里親会を支援することを目的とする。 助成対象事業: 里親会たよりの発行、県、全国里親会との交流、研修参加、研修会の開催等</p>		
事業の性格分類	実施根拠(法令、条例等)	新市建設計画事業 ワークショップ提案事業
義務的事業 任意的事業	児童福祉法第6条の3	
事業運営方法		
直営	一部委託	全部委託 補助等

		H17年度決算	H18年度決算	H19年度最終予算	H20年度当初予算	H21年度計画額	H22年度計画額	前期4年間計
財源内訳	事業費(千円)	0	0	2,111	2,046			
	国庫支出金			324	478			
	県支出金							
	市債							
	受益者負担分(使用料等)							
	その他							
内訳	一般財源			1,787	1,568			
	人件費	0	0	1,600	1,600			
	人工			0.20	0.20			
計	単価			8,000	8,000			
	年間経費	0	0	3,711	3,646			
	受益者負担率	#DIV/0!	#DIV/0!	0	0			

性質別内訳		人件費	扶助費	公債費	物件費	維持補修	補助費等	積立金	投資及び出資金	貸付金	繰出金	投資的経費	公営企業
平成	18												
	19				392		1,719						
	20				389		1,657						

定量評価		単位	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
指標1	目標	%	4	8	11	13	15
	実績	%	4	8			
年間経費(事業費・人件費の合計)		千円	0	3,711			
単位当たり経費		千円/単位	0	464			
単位当たり経費変動率		%		#DIV/0!			

指標2		単位	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
	目標	%					
	実績	%					
年間経費(事業費・人件費の合計)		千円	0	3,711			
単位当たり経費		千円/単位	#DIV/0!	#DIV/0!			
単位当たり経費変動率		%		#DIV/0!			

定性評価		
過年度の実施内容		
事前評価	必要性	(分析・理由)
	A	A 高い B ↑ C ↓ D 低い 家庭での養育に欠ける児童等を家庭的な環境で養育する里親制度は重要なものであり、里親制度の啓蒙啓発及び里親研修が必要である。
事前評価	行政関与の妥当性	(分析・理由)
	A	A 高い B ↑ C ↓ D 低い 里親委託の推進が求められている。
事後評価	有効性	(分析・理由)
	B	A 非常に有効 B やや有効 C あまり有効でない D 有効でない 里親委託推進のための研修や啓蒙啓発事業を行い、里親委託児童数が増加し、里親委託率の目標値を達成した。
事後評価	効率性	(分析・理由)
	D	A 単位当たり経費が前年比マイナス B 単位当たり経費が前年とほぼ同じ C 単位当たり経費が前年比プラス D 評価できない 政令市業務で19年度新規新規事業につき前年対比評価不可
今後の事業展開		
規模		(分析・理由)
拡大	拡大・充実 現状のまま継続 縮小 廃止 乳幼児期における愛着形成は極めて重要であり、家庭のなかで愛着関係の形成を図る里親制度の役割はますます重要となってきている。	
具体的な改善内容・事業の方向性等		
<p>(問題意識) 家庭での養育に欠ける子どもを家庭的な環境の下で養育する里親制度は、社会的養護の諸施策の中でも重要なものの一つであり、その推進を図る必要がある。ところが、里親委託率(里親委託児童数/里親委託児童数+乳児院入所児童数+児童養護施設入所児童数)は19年度目標の8%を達成したものの依然として低い。 里親委託数増加のためには、さらなる啓発活動、情報交換、里親研修などの実施が必要と考える。</p> <p>(想定結果) 市の実施が適当だが改善を要するもの</p>		
〔備考〕事業に対する市民・市民活動団体・事業者・議会からの指摘		